知る・分かる・できる・感じ取れるを結び付け音楽の愉しさを具現化する授業プランの模索

～フロー体験の理論に基づいて～

芸術教育専攻　音楽科教育学領域　中山　理恵

本論文の研究の目的は、小学校音楽科の授業を、教師児童共に愉しいと感じることのできる授業とは何かを追求することである。音楽授業の中でフロー体験を感じられる要素を設定し、それに基づき授業実践をし、検証をした。第１学年から第３学年まで授業実践をした後、その授業実践を基に第４学年で音楽づくりの授業実践案を考え実践をし検証をした。

第１章では、フロー体験についてまとめた。そして、筆者の考えるフロー体験の条件を考え、授業の中でのフローの条件を提示した。第２章では、フロー体験を活用したフラッシュカードによる読譜練習の授業実践を行いまとめた。フラッシュカードは、英語の単語の取得や算数の計算カードなどで教育活動の中で多様に用いられている。音楽活動でも読譜取得に用いたらどのような結果が出るか疑問に感じ実践を試みることにした。小学第２学年で授業実践を行った。全体の結果と個別での結果比較を行った。また、1 年後にどれだけこのフラッシュカードによる読譜練習が定着しているかを見るため、テストをし結果を出した。その際、フラッシュカードによる読譜練習を行った児童と行っていない児童との比較も行った。そして成果と今後の課題をまとめた。第３章では、フロー体験を活用したイメージ奏法による授業実践を２つ行いまとめた。小学第１学年では、歌唱指導での実践を行い、小学第３学年では鑑賞の授業で実践を行った。歌唱指導では、カラーリングとマークによって表現の方法を目で見てわかるようにし、実践をし考察をした。鑑賞では、イメージ表を使い、鑑賞した曲をイメージ表に分類し記入をさせ、創作活動でも鑑賞し記入をしたイメージ表を見ただけで、思いや意図のある音楽をつくることができる表を使い、実践をし考察をした。第４章では、第１章から第３章までのまとめと、そこまでの実践を用いた創作活動（音楽づくり）の授業を考え、実践をした。毎時フロー体験が感じられるよう、フローの条件を設定し、積み重ねてきたフラッシュカードとイメージ奏法のイメージ表を使い、創作活動へと結びつけた。第 4 学年の音楽づくり活動で、4 時間完了で行った。毎時終了時に記入したワークシートを基に、結果から考察をした。

今後の課題として、自分の思いや意図を演奏で他者に伝えることができるように、フロー状態の中、技能向上を目指した授業案を模索したい。その際、第４章で実践した ICT を活用し、新しい試みを模索していきたい。